内閣府青年国際交流事業に関する
緊急アンケートについて

○「青年国際交流事業の効果測定・評価に関する検討会」の議論を受け、実施。
○　内閣府青年国際交流事業と留学との効果の比較のため、両者の経験がある者に対し、グローバル人材に求められる要素[i]等への効果について質問。

調査期間：平成 24 年 7 月 25 日～8 月 7 日
調査方法：メールよる送信、インターネットフォーム及びメールでの回答
送信数：約 2,000 名　回答数：839 名（うち約 530 名が留学経験[ii]あり）

「著しく大きな効果があった」とする者の割合
（5 段階評価の最高評価）

項目	内閣府事業	留学
リーダーシップ	４６％	９％
主体性・積極性・チャレンジ精神	６４％	４０％
集団生活への適応力（協調性・柔軟性）	６４％	２１％
責任感・使命感	６０％	１６％
他者・異文化間における調整力	６４％	３０％
異文化への対応力	７０％	４５％
日本人としてのアイデンティティー・誇り	７０％	３５％
コミュニケーション力	５４％	４５％
語学力	２７％	５５％
専門的な知識・技能	１７％	２８％
その後のネットワーク・連絡・連携	６８％	１４％

[i] 政府のグローバル人材育成戦略（平成 24 年 6 月 4 日）では、以下の３つの要素が挙げられている。
　要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力
　要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感、使命感
　要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー
[ii] 留学は 2 週間以上の留学を対象。留学期間の平均は 10.4 か月。